日本の皆さん 祖国助けて

宮城に住む3人のメッセージ

宮城県に在留するミャンマー人3人が河北新報社にメッセージを寄せた。原文はビルマ語で、NPO法人宮城・ミャンマー友好協会に翻訳を依頼した。

昼夜、泣き声と銃声響く

●男性

「クーデターが起こり、抵抗する国民は仕事を失い、生活に困窮している。ある地域では、朝から晩まで子どもの泣き叫ぶ声と、銃弾の音が響いている。ある村では、安全を求めて土地や家を捨てジャングルに逃げ込み、食べ物もなく隠れている人がたくさんいる。都会の町ではドアを無理やり壊され、連れ去られて行く人がたくさんいる。連れ去られた後は厳しい暴行を加えられる。日本政府には一日も早く軍の暴挙を止めさせ、平和なミャンマーが戻ることに力を貸してほしい」

貧しい人は命懸けでデモ

●女性

「現在、ミャンマーでは外にも出られない。出たら軍に捕まって、持ち物を調べられ、携帯の通信内容を見て銃でたたいたり蹴ったり、ひどい仕打ちを受ける。家にいても無理やりドアを破って入ってきて物を持ち去り、壊してしまう。ミャンマーの人は仕事もなく、食べ物もなく、デモに参加した方が食べ物がもらえるということで、貧しい人たちは命懸けでデモに出ている。国境近くに住む少数民族は家を焼かれ、住む家もなく食べ物もない状況に追いやられている。日本の皆さま、どうか助けてください」

ゲームのように殺される

●女性

「もしあなたの家に突然軍人が10人やって来て、ドアを開けろ、と言われたらどうするか？

ミャンマー軍は開けないとドアを壊し、『なぜ開けなかったのか』と殴り、無理やり連行する。周りの家も怖がって誰も助けにきてくれない。じっと隠れているだけだ。人がまるでゲームの中のように簡単に殺されていく。今欲しいのは守ってくれること、助けてくれること、それだけだ。私たちはそれを待っている」

現地の友へ「命を大切に」
国際社会へ「暴力止めて」

東北在住ミャンマー人の叫び

ミャンマーで国軍がクーデターを強行し、実権を握ってから11日で100日となった。激しい弾圧による死者は700人を超えた。「すごく悔しいし、悲しい」。東北で暮らすミャンマー人は、祖国の惨状に胸を痛めている。（コンテンツセンター・佐藤理史）

若者デモ参加

「民主化が進み、光が当たっていたのに、元の暗闇に戻ってしまうのが怖い」。匿名で取材に応じたミャンマー人は吐露する。

ミャンマーは2011年、軍政から民政に移管。15年の総選挙でアウン・サン・スー・チー氏が率いる国民民主連盟（NLD）が圧勝し、民主化の定着と経済発展を成し遂げた。

「街がきれいになり、車も良くなった。進出する日本企業が増え、雇用に国際的な支援が生まれていた」

未来に向けた明るい流れは2月1日、暗転した。国軍が実質的な国の最高指導者のスー・チー国家顧問兼外相らを拘束し、全権掌握を宣言。以来、重火器を使って抗議デモへの弾圧を続ける。

デモに参加する多くは、民政下で育った20代前後の若者だ。「自由の素晴らしさ、楽しさを感じ、世界に希望や未来があることに気付いた世代。一度手放したらもう戻らないという気持ちで参加しているのだろう」と共感する。

このミャンマー人は会員制交流サイト（SNS）などで友人らと連絡を取り合う。「自分が何もできないことが歯がゆく、悩み苦しんできた。今は痛みを分かち合っている。もっと命を大切にしてほしい」と揺れ動く心情を明かす。

逮捕の恐れも

祖国では、海外メディアのインタビューに応じた市民が拘束され、デモを取材していた日本人フリージャーナリストが治安当局に逮捕、訴追される事案が起きている。「家族や友人に危害が及ぶのが怖い。自分も帰国できなくなるかもしれない」。不安を募らせながらも国の前途を憂え、意を決して取材に応じた。

国際社会に求めることはただ一つだ。「若者たちの命がこれ以上奪われないよう、一刻も早く暴力を止めてほしい。一国の手に負えない困難に陥っているので、国連などが間に入ってほしい」と力を込める。

政府開発援助（ODA）などの人道支援を通じ、国軍に独自のパイプを持つと強調する日本政府。市民弾圧に「強い非難」を示したが、具体的な制裁には着手していない。

近年は官民を挙げて最大都市ヤンゴン近郊に経済特区を開発するなど、関係を深めてきただけに「利益がある時だけ付き合い、利益にならない時は見捨てるのか、という気持ちだ。暴力を止めるため、傍観せずに思い切ったことをやってほしい」と切望する。

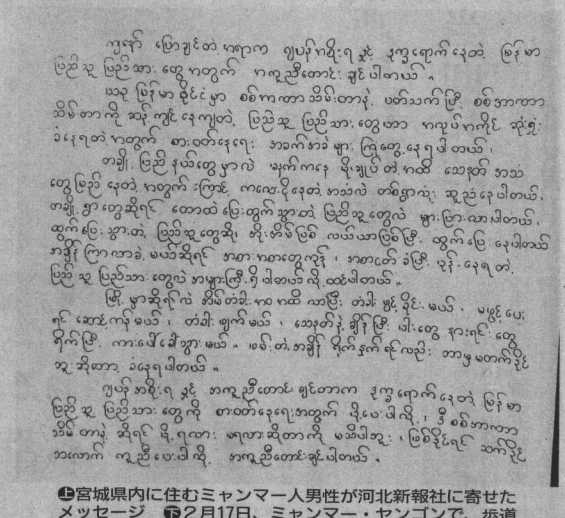
寄付呼び掛け

東北には1300人以上のミャンマー人が暮らす。NPO法人宮城・ミャンマー友好協会（仙台市）は、クーデターで生活に困窮する市民を支援しようと、寄付を呼び掛ける。

協会は13年設立。約70の個人と法人の会員がいる。現地に小学校を建設し、文具を届けるなど交流を続けてきた。私費留学生の支援にも取り組んでいる。

加藤重雄事務局長は「信頼できる確実なルートで困っている人たちに届ける。こういう時にこそ手を差し伸べ、寄り添っていきたい」と話す。連絡先は宮城・ミャンマー友好協会090（2601）9761。

メモ　法務省在留外国人統計（2020年6月末）によると、日本に在留するミャンマー人は3万3303人、うち東北は1335人。12年と比べて全国で約4倍、東北では約19倍と、11年の民政移管後、大幅に増えている。水産加工業などの技能実習生が大半。制度上の目的は技能の習得だが、人口減少が進む地方では実質的に貴重な労働力となっている。



㊤宮城県内に住むミャンマー人男性が河北新報社に寄せたメッセージ　㊦2月17日、ミャンマー・ヤンゴンで、歩道橋付近を埋め尽くすクーデターへの抗議デモの参加者